

罹患の概要

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 17 (2005) 年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期

平成 20 (2008) 年 12 月 25 日現在

罹患年月日の決め方

- ① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする
- ② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

- ① ICD-0-3 分類の性状 2 (上皮内), 3 (悪性、浸潤性) で示される新生物

② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1 (良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍) で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

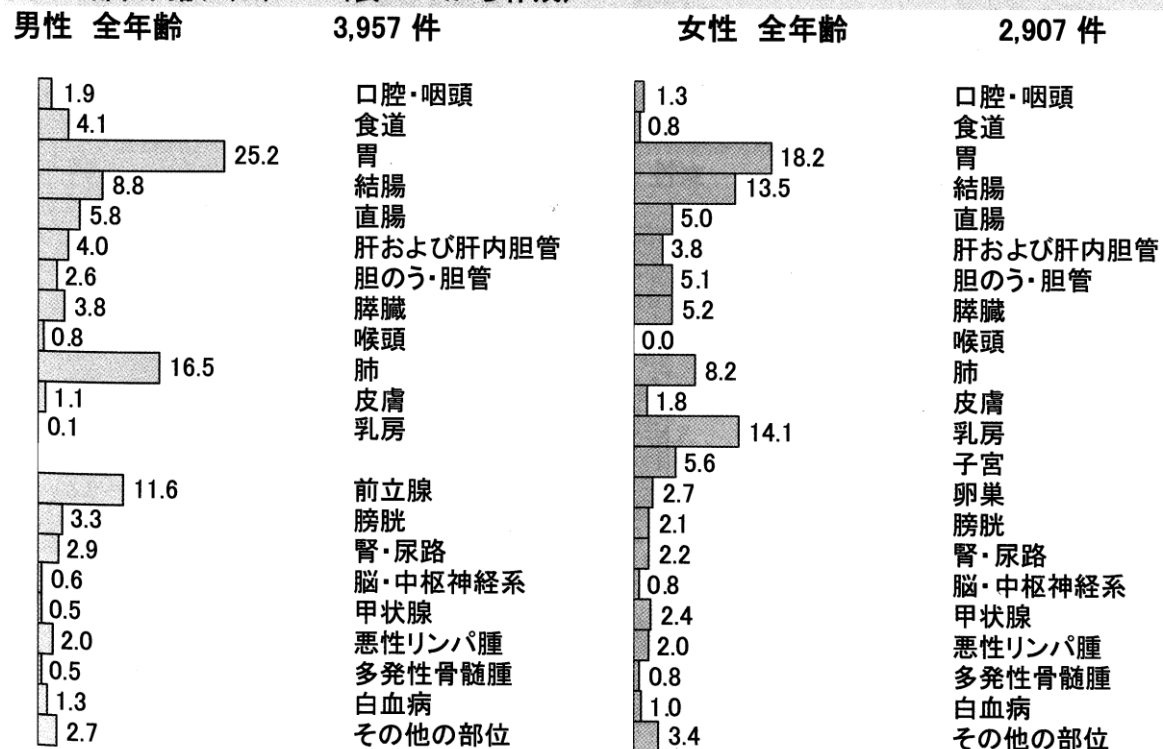
精度指標

DCN : 24.3%
DCO : 9.0%
I/M : 1.82

■ 罹患の概要

2005 年に山形県において、男性延べ 3,957 件、女性延べ 2,907 件の、合計延べ 6,864 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、直腸、食道と続く。女性で最も多いがんも胃がんであり、乳房、結腸、肺と続く (図 1)。

図 1 部位内訳 (%) (表 1-A から作成)



年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、男女ともに、2005年に新たに診断されたがんの2/3以上が65歳以上だった。一方、働き盛りの40-64歳の年齢層も全体の約1/4を占めている(図2)。

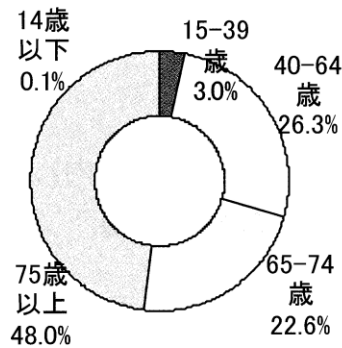
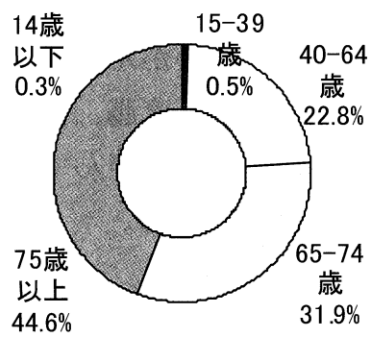
女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんや乳がんが多いためである。(図3)

その他のほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすい。主ながんの年齢階級別罹患率をみると、胃がんは

男性の50歳以上、女性の60歳以上の千人にひとり以上、結腸がんは男性の60歳以上と女性の65歳以上、肺がんは男性の60歳以上、女性の80歳以上で、それぞれ千人にひとり以上が罹患している。乳がんは、40から50歳代及び70歳代で、千人にひとり以上が罹患している(図4)。女性の20歳から50歳未満で、子宮の上皮内がんの罹患が多い。

図2 年齢別内訳(%) (表2-Aから作成)

男性	
14歳以下	10
15-39歳	20
40-64歳	902
65-74歳	1,262
75歳以上	1,763
合計	3,957



女性	
2	14歳以下
87	15-39歳
765	40-64歳
657	65-74歳
1,396	75歳以上
2,907	合計

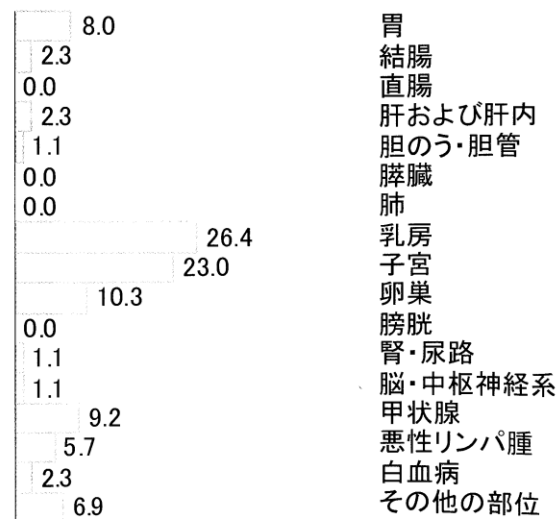
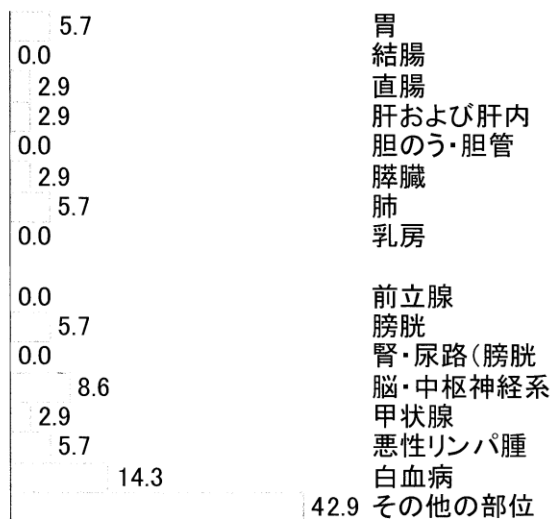
図3 年齢別部位内訳(%) (表2-Aから作成)

男性 15-39歳

35件

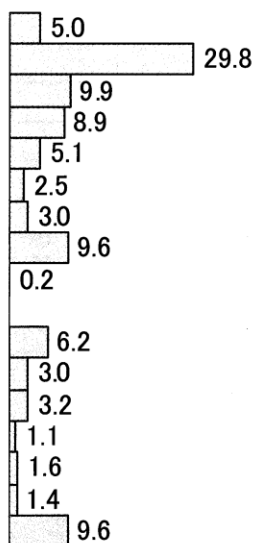
女性 15-39歳

87件



男性 40-64歳

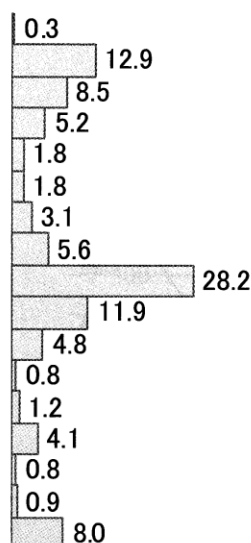
887 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 40-64歳

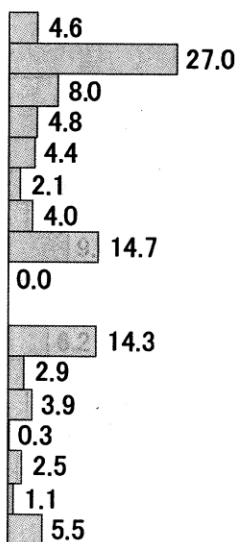
765 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性 65-74歳

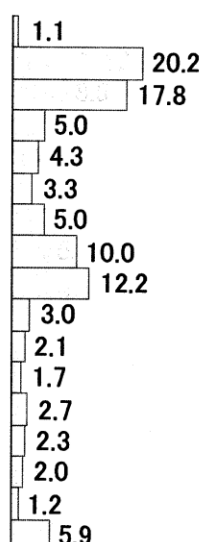
1,262 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 65-74歳

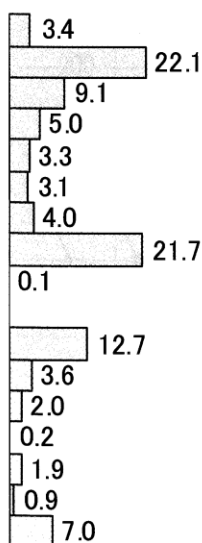
657 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

男性 75+歳

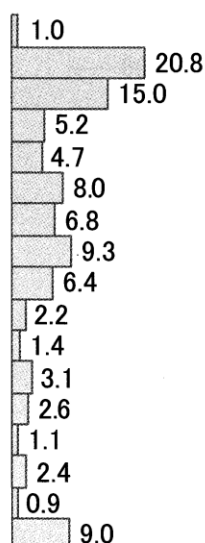
1,763 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
前立腺
膀胱
腎・尿路(膀胱除く)
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

女性 75+歳

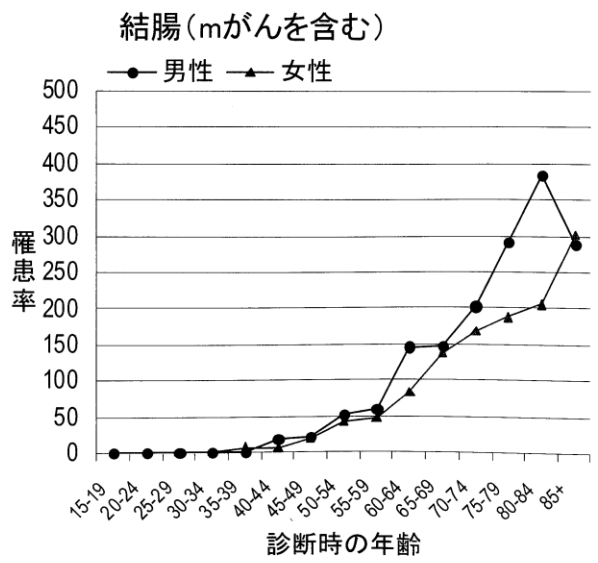
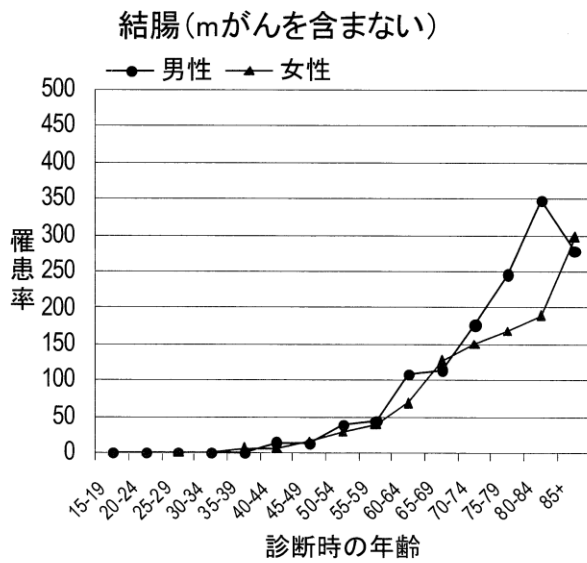
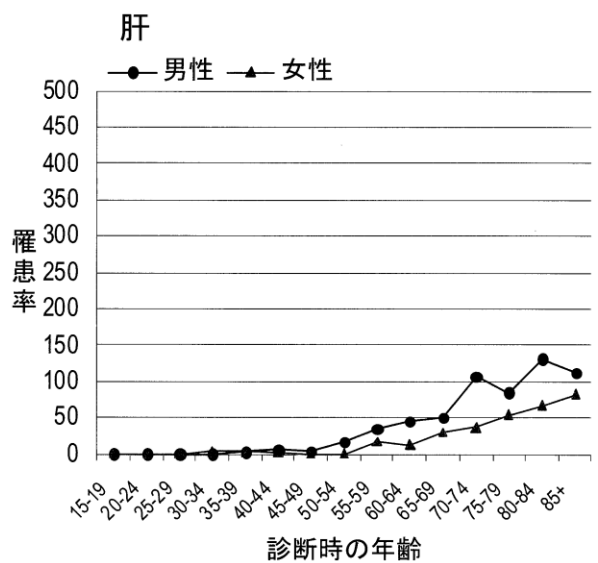
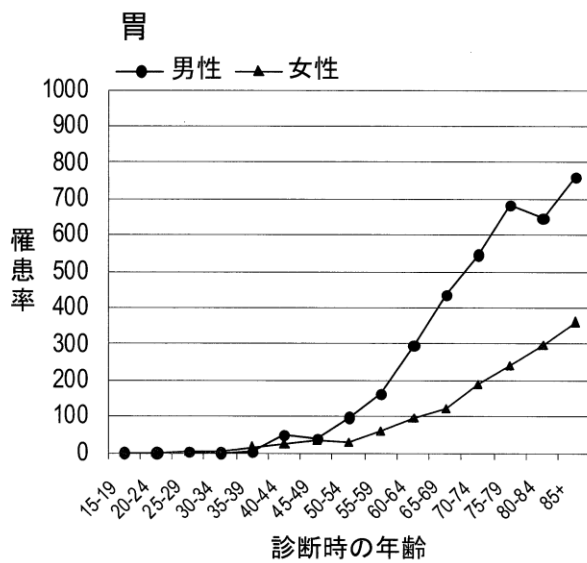
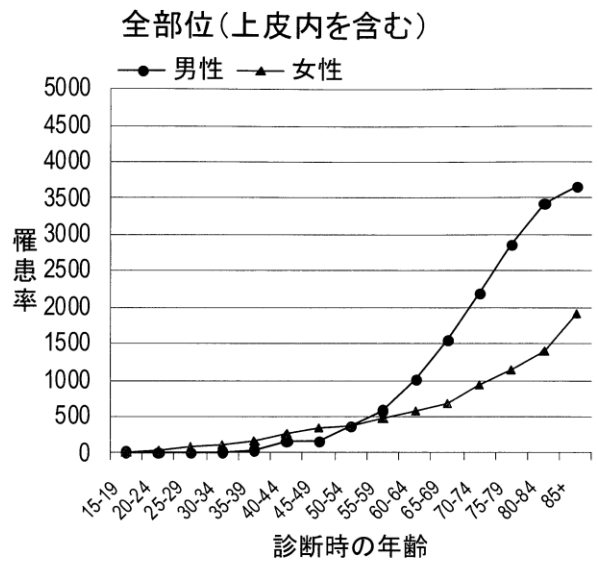
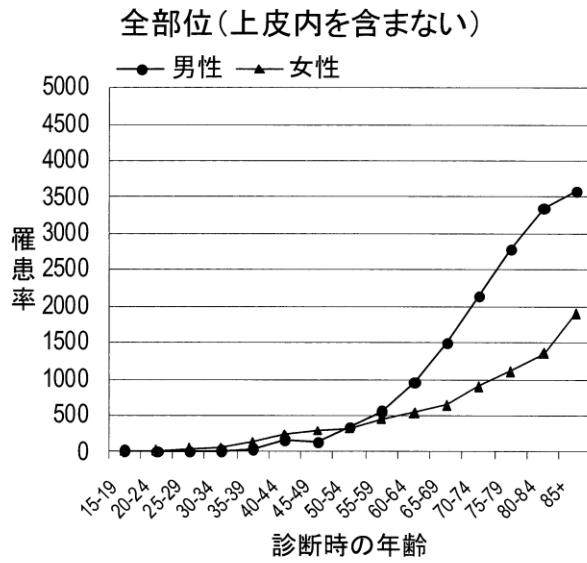
1,396 件



食道
胃
結腸
直腸
肝および肝内胆管
胆のう・胆管
膵臓
肺
乳房
子宮
卵巣
膀胱
腎・尿路
甲状腺
悪性リンパ腫
白血病
その他の部位

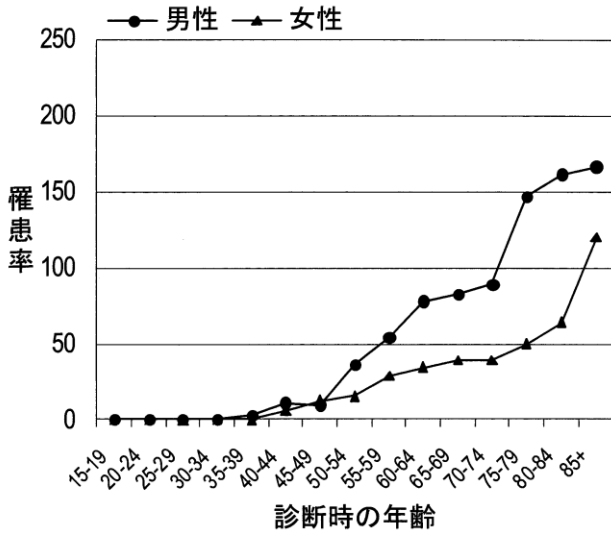
図4 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対

(表3-A、Bから作成)

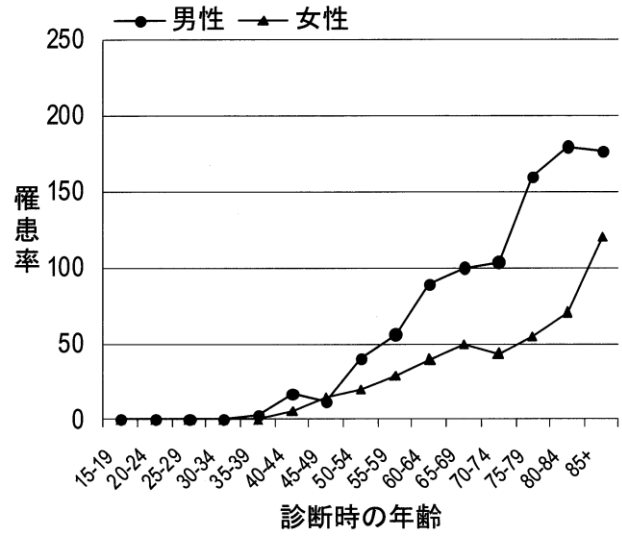


注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。

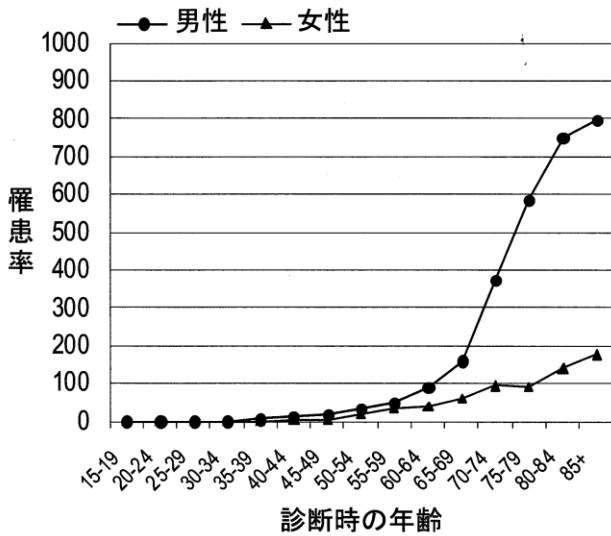
直腸(mがんを含まない)



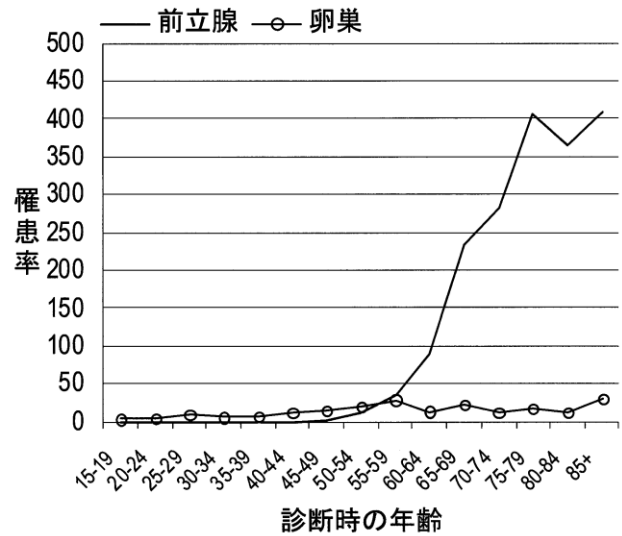
直腸(mがんを含む)



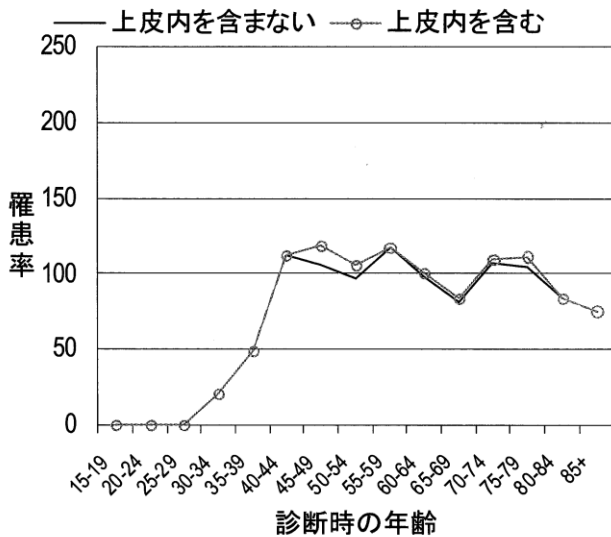
肺



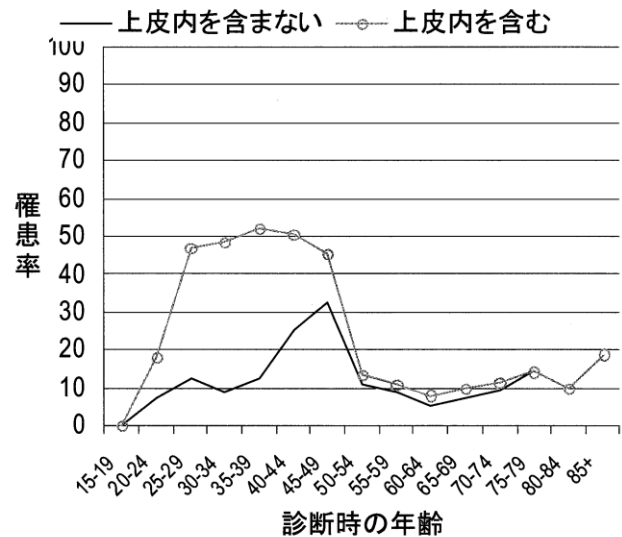
前立腺・卵巣



乳房



子宮

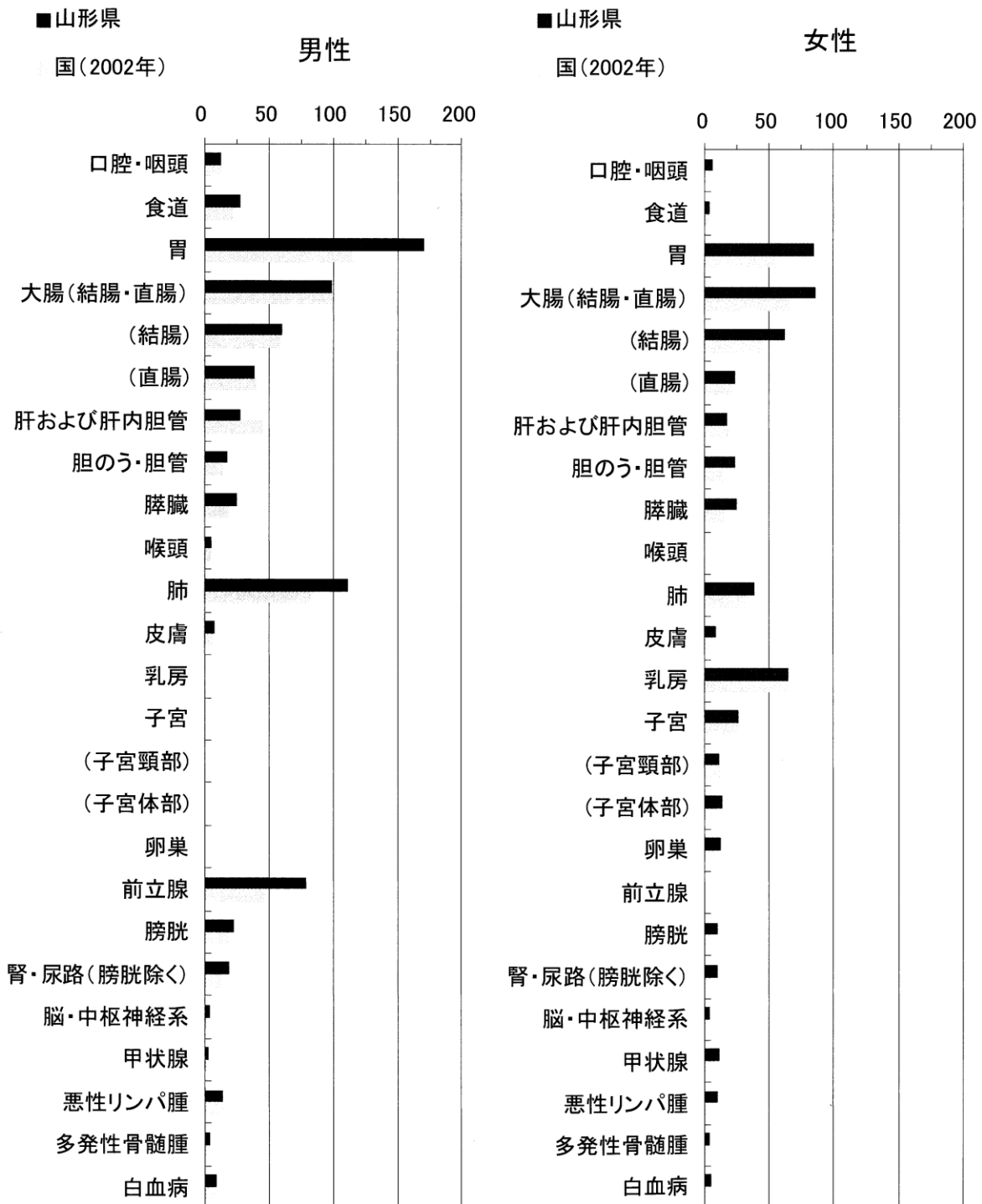


山形県のがんの罹患の特徴

ほぼ全ての部位において、日本全体の推計値と比較して、罹患率が高い。特に、男女の胃、膵、男性の肺、前立腺、女性の結腸、胆のう・胆管において差が大きい。男性の肝及び肝内胆管は、全国値よりも明らかに罹患率が低い。

腸、胆のう・胆管において差が大きい。男性の肝及び肝内胆管は、全国値よりも明らかに罹患率が低い。

図5 部位別がん罹患率：人口10万対（表1-Aから作成）



国の値は、がん研究振興財団発行「がんの統計編集委員会編「がんの統計〈2008年版〉」より引用。

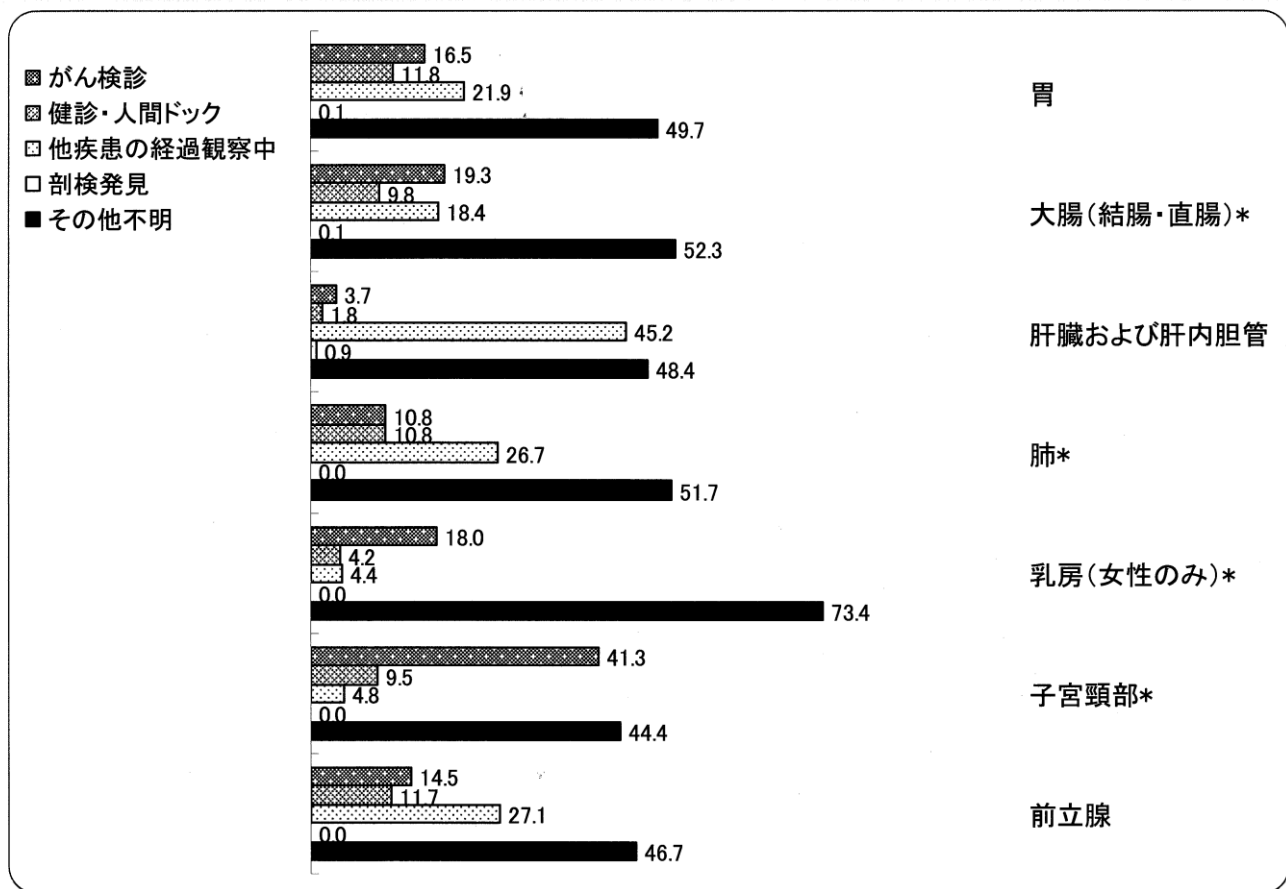
発見経緯

一般に住民検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 28.3%、大腸 29.1%、肺 21.6%、乳房 22.2%、子宮頸部 50.8%であった。前立腺においても、がん検診・健康診断・人間ドックが発見の契機であった症例の割合は 25%を越えている。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれ

る。その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

肝・肝内胆管において、他疾患の経過観察中の発見が多いのは、肝炎や肝硬変の治療中の発見によると考えられる。前立腺において、他疾患の経過観察中が比較的多いのは、前立腺肥大や PSA 高値の経過観察中の発見によると考えられる。

図 6 部位別発見経緯 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)



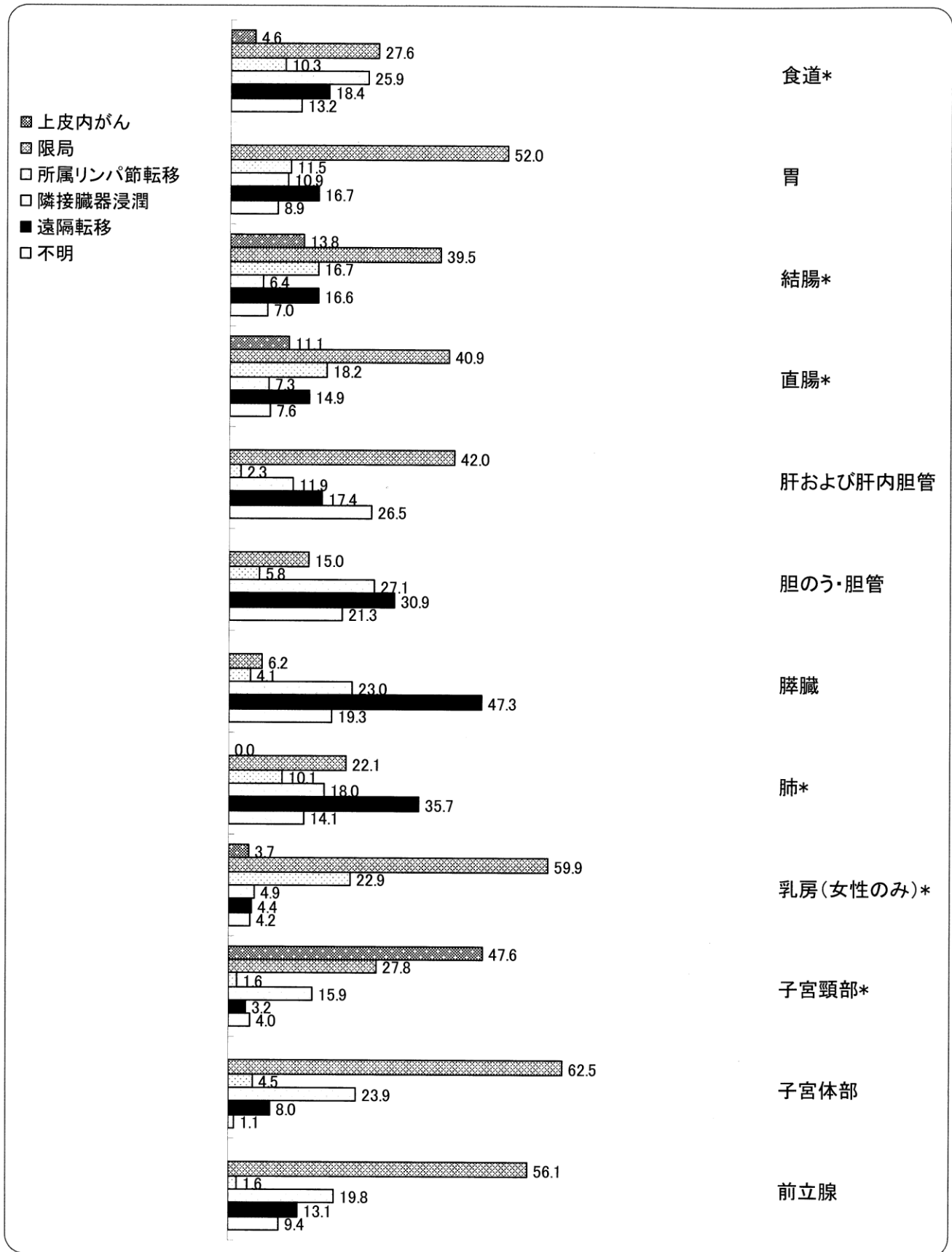
* 上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が高い。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移が

あった割合が高い。胆のう・胆管、膵臓といった腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位では、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

図7 部位別発見時の病期 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 5-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

胃の限局には、mがんを含む。

結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。

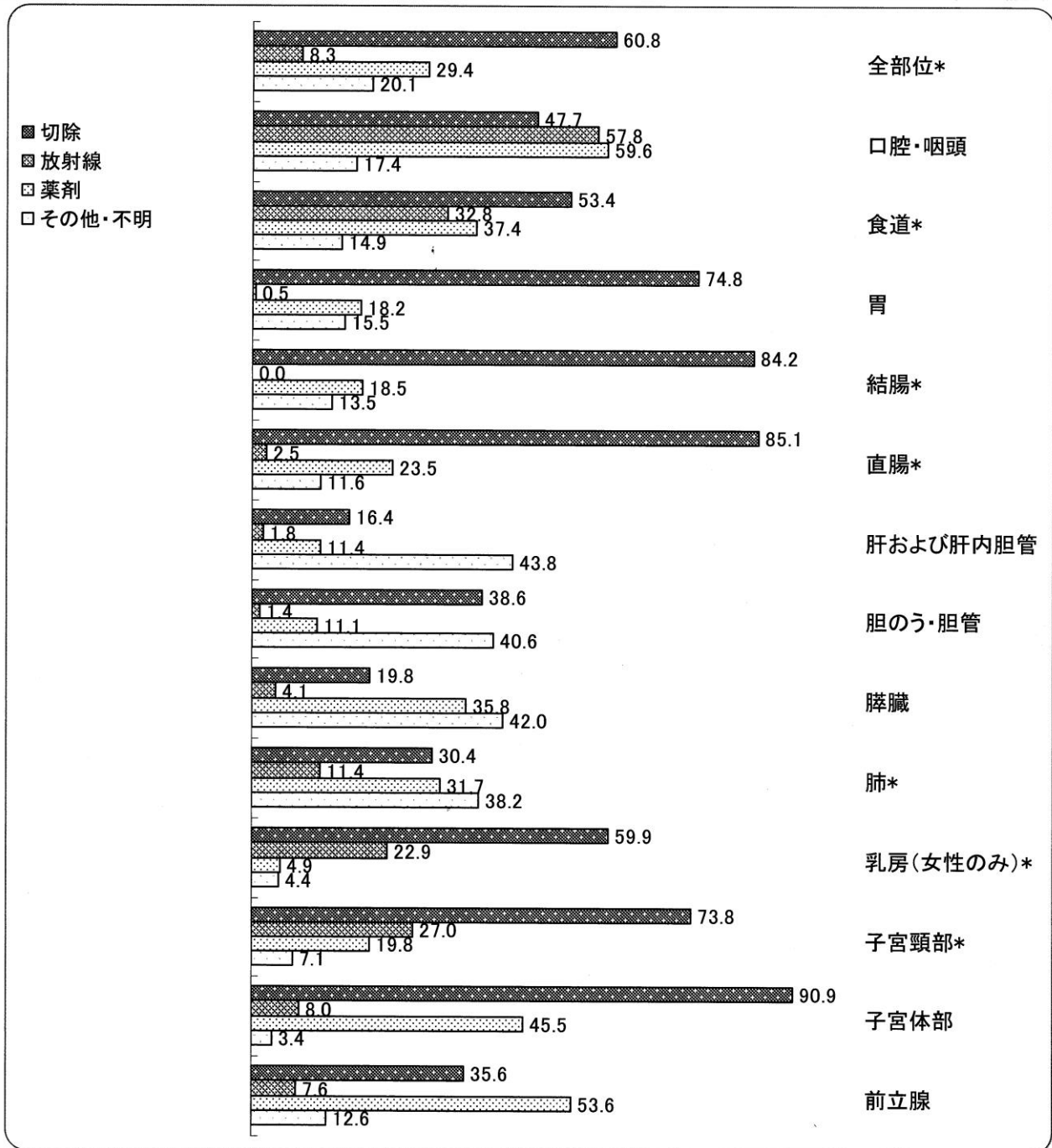
子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

初回治療の方法

胃、大腸などの消化管、乳房、子宮体部、甲状腺、脳、皮膚では、手術などの外科的治療の割合が高い。口腔・咽頭、食道、喉頭、乳房、子宮頸部、脳では、薬剤や放射線による治療も

比較的多く行われている。肺では、手術と薬剤（化学療法）が同じ程度行われている。前立腺の薬剤による治療は、ほとんど内分泌治療と考えられる。

図8 初回治療の方法 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 6-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。